

事業報告書

事務局経営戦略課

1 法人の管理運営事業

定例評議員会を1回（6月27日）、定例理事会を2回（6月12日・3月18日）のほか、臨時評議員会を対面により1回（10月16日）、書面決議により1回（3月27日）、臨時理事会を1回（10月8日）開催した。

指定管理業務の円滑な運営のため、宮崎市、宮崎市教育委員会の各担当部署並びに各施設との綿密な連絡調整を行うと共に、公益法人として、定款及び規則に定めた人事・財務などの所掌事務を適切に行った。

2 研修事業

内部研修・・・職員の資質向上のため、年間研修計画に基づき、研修を実施した。

階層別研修、特別研修（外国人対応研修、健康管理研修）などを実施した。

研修回数 9回 職員参加者数 延べ 172人

外部研修・・・宮崎県職業能力開発協会の研修会に参加すると共に、防火管理者講習や衛生推進者養成講習、改正公益認定法セミナー等に参加した。

3 健康管理事業

職員の健康管理のため、職員から産業医への健康相談ができるような体制を整え、長時間労働者への健康相談の勧奨のほか、各施設で合計6回の健康相談を計画し、延べ3人の利用があった。

4 その他

定款に定める目的を達成するため、協会横断的な以下の事業を行った。

(1) みやざきジュニアサイエンスアカデミー（MJSA）事業

科学分野に強い興味関心をもつ子どもたちが、専門の講師のサポートのもとで主体的に学び、高いレベルでの学習意欲を満たしながら、自ら課題を見つけ探究活動を行う機会を提供するため、2つのプログラムを実施した。

①選択方式の分野別プログラム

予測不可能な社会やAI共存社会を生き抜くため、自ら課題を見つけ探究活動を行う主体的姿勢を育むことを目的に、科学に強い興味を持つ子どもたちへ専門家サポートのもとで学びの機会を提供し、「宇宙」と「プログラミング」の2コースを開設・活動した。

活動回数 各コース14回

参加者数 宇宙コース 20人、プログラミングコース 21人

事業の成果と社会的価値

「当事業にお子様や保護者様が興味をもった理由は何ですか？」という問いに対して、100%が「宇宙分野・プログラミング分野にお子様に興味をもっていたから」、次いで46.2%が「高いレベルの学習を受けさせたかったから」と回答した。これにより、次世代の科学技術人材の育成や高度な学習機会の提供という社会的課題の解決に向

けた直接的な成果を確認できた。また活動終了後のアンケートからは、子どもの主体的な学習姿勢・探究する力の向上や将来のキャリアへの意識づけ、多様な交流を通じた社会性の育成、親子の対話といった家庭内コミュニケーションの質的向上など、さらなる課題解決への寄与も確認できた。

今後の改善策

「活動の開始時間に間に合わない」との声があったため、次年度は活動時間を後ろにずらし、受講生が参加しやすい時間設定へ改善を図る。また、「受験やインフルエンザの流行時期と重なる」との懸念があったため、次年度は活動期間全体を前倒しにし、欠席リスクを減らしたスケジュールへ改善を図る。

②オムニバス形式の科学プログラム（講演会）

科学分野の専門家による講演会を、次世代を担う子どもたちや幅広い世代に向けて実施し、科学への知見を深める機会を創出した。

講演会開催数 3回（テーマ：脳科学、エネルギー、AI）

参加者数 延べ 650名

事業の成果と社会的価値

全3回のアンケートで「満足」以上の回答が平均約74.6%を占め、小学生から80代まで幅広い世代に対し先端科学に触れる機会を創出した。自由回答からは、脳科学を通じた教育や認知症予防への意欲向上（第1回）、SDGsや脱炭素に向けた環境意識の醸成（第2回）、デジタル社会での情報リテラシー向上（第3回）が見られ、地域社会の課題解決と世代を超えた学習意欲の促進に寄与した。

今後の改善策

サテライト会場のアンケートから、「音声が反響する・こもる・途切れる」、「スライドの上下が切れる・画面が不鮮明」、「講師の指示箇所が分からない」といった音響・映像面への不満が多数寄せられ、満足度の低下を招いたことが課題として抽出された。これを解決するため、次年度はサテライト会場の配信および機材管理を専門業者に委託する。プロの運用により視聴環境を抜本的に改善し、快適な受講環境の提供を図る。

(2) 学術・科学技術・文化・芸術振興のための研究事業の実施

学術及び科学技術、文化等の普及・啓発・振興を図るとともに、職員の職務能力の向上のため、指定管理する施設の適正な運営や業務達成に貢献できると認められる研究を実施し、その費用の一部又は全部を補助した。

また、令和8年度の全職員研修内にて研究事業表彰式と研究事業成果発表、理事会及び評議員会で研究事業成果発表を行う予定。

研究本数 6本

研究者数 延べ9人

事業の成果と社会的価値

平成24年度から研究事業を継続し、これまでの研究の約9割が施設整備やイベント立案等の業務改善に直接反映されている。また、職員が自ら課題解決に取り組むことでスキルアップや前向きな組織風土が醸成され、理事会でも高く評価されている。さらに、

共生社会の推進や自然環境保全など地域課題の解決に直結し、「文化の香り豊かなまちづくり」に貢献している。

今後の改善策

研究事業をさらに効果的かつ持続可能な取り組みとするため、令和8年度より運用を2点見直す。第一に、職員が主体的に研究へ参画しやすい環境を整えるため、計画書の段階における審査手続きを簡素化する。第二に、紙媒体の「研究成果報告書」を廃止してデジタル公開へ集約する。これによりペーパーレス化による環境負荷や経費の低減を図るとともに、誰もが有益な研究情報へ手軽にアクセスし活用できる環境を構築する。

(3) 処遇の改善

職員の待遇改善を図るため、給料表や賃金等の改定を行った。併せて通勤手当の改正、臨時職員に対して有給の病気休暇の新設を行った。(令和8年4月1日施行)。

(4) 経営推進会議の開催

協会の定款上の目的実現を踏まえ、物価高騰等の厳しい経営環境と時代の変化に対応するため、8回にわたり、各館の「魅力増」、「収益増」に繋がる取り組みに関する情報共有や意見交換を行った。

(5) 協会機関誌「まなぶんか」の発行

1市2町(宮崎市・国富町・綾町)に向け、科学や歴史・文化に関するタイムリーな話題を随時提供しながら、季節ごとのイベントの紹介や、イベントの背景や見どころなどを詳しく紹介する協会機関誌を年2回発刊し、宮崎市、県内の教育委員会・小学校・中学校・各支援学校・博物館等施設、1市2町の幼稚園・保育所等、宮崎銀行各支店、小児科医院、宮崎科学技術館「友の会」会員、入館者等に配布した。

A4版8ページ、カラー印刷、各4,500部(年2回)

(6) 公益財団法人宮崎文化振興協会モニターによるモニタリング

来館者に限らず、広く地域住民のご意見をお伺いし、次の事業展開や施設管理に反映させるため、1市2町の在住者を対象にモニターを公募し、アンケート協力や協会への提言等、協会の施設運営への意見をいただいた。

モニター回答数 74件 モニター人数 16人

(7) 授業づくりサポート事業

学習学校教育支援の一環として、1市2町の小学校理科担当教諭に対し、理科の授業づくりの全般のサポートを行った。また、各自の課題に応じて適切なサポートを行うことで、各学校における理科教育の向上を図った。

出前講座等の実施回数 4回

(内訳) 小学校 3回 ・ 参加学級 7学級

東諸県郡小学校理科主任会 1回

(8) ぶんしんきょうチャンネルの配信

協会内のホームページ上に開設している「ぶんしんきょうチャンネル」において、動画コンテンツ

を定期的に配信することにより、家にいながら各施設の魅力に触れることができるようにし、来館意欲を高めた。

動画掲載数 56本（令和8年3月末現在）

宮崎科学技術館

I 管理運営事業

令和5年度から5か年の指定管理を受け、令和7年度においても展示室、プラネタリウム事業等の円滑な運営を行うための保守・点検業務などを実施し、健全で効率的な管理運営に努めた。

(1) 施設利用状況・利用内訳

①開館日数・入館者数等

開館日数	298日		
入館者数	130,313	年齢別内訳	
		小人	大人
		67,443 人 (51.8%)	62,870 人 (48.2%)
		形態別内訳	
人	人	個人	団体②
		114,394 人 (87.8%)	15,919 人 (12.2%)
1日平均入場者数	437	人	

②団体利用の属性・地域別内訳

属性	県内				小計	県外③		合計	
	広域圏内 (宮崎市・国富町・綾町)		広域圏外 (左記以外)			人数(人)	比率		人数(人)
	人数(人)	比率	人数(人)	比率					
幼稚園・保育所等	4,749	48.9%	839	15.1%	5,588	108	16.5%	5,696	
幼・小合同	0	0.0%	0	0.0%	0	0	0.0%	0	
小学校	3,488	35.9%	2,995	54.0%	6,483	47	7.2%	6,530	
中学校	489	5.0%	297	5.4%	786	0	0.0%	786	
小・中合同	0	0.0%	119	2.1%	119	0	0.0%	119	
高等学校	190	2.0%	42	0.8%	232	0	0.0%	232	
一般	298	3.1%	189	3.4%	487	219	33.5%	706	
児童クラブ	295	3.0%	927	16.7%	1,222	279	42.7%	1,501	
福祉施設	210	2.2%	139	2.5%	349	0	0.0%	349	
合計	9,719	100.0%	5,547	100.0%	15,266	653	100.0%	15,919	

③県外地方別団体利用内訳

県外地方別団体利用内訳			
地域	団体数	人数	比率
福岡	2	51	7.8%
熊本	3	100	15.3%
鹿児島	14	458	70.1%
大分	1	24	3.7%
佐賀	1	20	3.1%
九州・沖縄	21	653	100.0%
中部	0	0	0.0%
関東	0	0	0.0%

※構成比は四捨五入しているため、合計が100%にならない場合があります。

【臨時休館（下記1日間）】

※6/21 臨時休館（電気系統のトラブルによる停電、多目的ホール貸館・共催事業「環境科学フェア」のみ実施）

※12/20 トワイライトミュージアム事業実施のため、開館時間を19時まで延長

(2) プラネタリウムの利用状況

プラネタリウム投影日数	298 日
利用者数	57,222 人
1日平均利用者数	192 人

※プラネタリウム利用者数は、プラネタリウム事業入場者数に、コンサートや貸館利用等の多目的利用を含んだ人数

II 主要事業

(1) サイエンス事業【宮崎少年少女発明クラブ】

小・中学生に、科学的な原理・原則について追究する場を提供し、家庭や学校枠を離れた異年齢の集団の中での創作活動によるものづくりを行った。

開催期日 令和7年5月9日（金）～令和8年1月23日（金）間の20回
対象者 小学4年生～中学3年生
参加者数 クラブ員数30人：年間総参加者数（付添保護者含む） 841人
事業の成果と社会的価値

宮崎県発明くふう展の入賞者数は24名（宮崎県入賞率80%）、全日本学生児童発明くふう展の入賞者は3名（全国入賞率10%）で、全国トップクラスの実力を示しているといえる。宮崎県全体の入賞枠の多くをこのクラブが牽引している可能性が高く、地域の科学教育水準を底上げしている存在であり、宮崎県の評価への貢献をしているといえる。

今後の改善策

修了生の活躍や具体的な作品として、外部に発信する余地があり、地域の企業と連携して「子どもたちのアイデアを社会に還元する」試みを行う必要がある。また、JSCによる指導員の高齢化が進んでいるので、修了生を指導者側に巻き込んで、安定した運営基盤を固めていく必要がある。

(2) インストラクター事業【コスモランド教室】

幼保育園児の科学する心や宇宙への関心を高めるとともに、豊かな心と創造性を育み科学技術館に親しみをもってもらうために、コスモランド教室を10回実施した。

開催期日 令和8年1月16日（金）～令和8年2月13日（金）の間の10回
対象者 宮崎市・国富町・綾町（1市2町）の幼稚園・保育所の園児
参加者数 1,910人
事業の成果と社会的価値

コスモランド教室参加者の100%（アンケート回答数63名）が「楽しかった」と回答しており、満足度は非常に高く、今年度のコスモランド教室は、過去最高レベルの満足度であった。特に優れていた点は、「参加型の構成が幼保育園児に非常に合っていること」・「星座への興味を強く引き出していること」・「スタッフの対応・運営面」で、高く評価されている。

今後の改善策

一部、プレゼンテーションでの視認性改善の指摘を受けたので、プラネタリウムの投映での配置構成等の改善が必要である。また、使用した道具等の作り方が知りたかったとあり、使用した道具の紹介（ショー後の展示など）をすることも今後検討していきたい。

III その他の事業

1 常設展示事業

世界に2基しかないアポロ11号月面着陸船原寸大模型をはじめとした大型の展示物の他、人気の4

D-VR（2人乗り連動チェア）やVRゴーグル8台を設置し、先端科学技術を集約した展示物は約120点にのぼる。来館者が体験を通して科学の不思議や自然の素晴らしさに気付くことに努め、科学に対する興味・関心を高めさせることができた。

なお、令和4年度からは、映像技術の最先端である3Dホログラムディスプレイや3D回転アームディスプレイを導入し、集客力の向上に努めた。

また、来館者自身が所持しているスマートフォンやタブレット端末に日本語や英語、中国語（繁体字）で展示案内の表示や音声案内ができるモバイルガイドシステムの導入や、日本語による解説文表示や音声案内により、外国人だけでなく視覚、聴覚に障がいのある方々にも利用しやすい環境を構築できた。

2 教室事業

(1) 科学実験・工作教室

子どもたちに「科学する心」を育てるためのサイエンス教室や、一般の人を対象にした「生きがい科学館」、子どもから大人まで楽しめるサイエンスショーや工作教室などを、宮崎大学教育学部・農学部・工学部や宮崎県環境科学協会、みやざきキッズサイエンスラボ、JSC（教育ボランティア）、宮崎大学の自然科学体験学習の学生、宮崎ビジネス公務員専門学校の実践活動の学生と共に実施した。

①	チャレンジサイエンス	実施回数	33回	参加者数	合計	7,190人
②	ダ・ヴィンチ工房	実施回数	6回	参加者数	合計	170人
③	生きがい科学館	実施回数	8回	参加者数	合計	84人
④	エンジョイサイエンス	実施回数	11回	参加者数	合計	1,243人
(工学部 9/14 92人、11/16 104人 / 農学部 6/8 75人、7/13 95人 / 教育学部 7/27 100人、8/31 107人 / サイエンス 5/5 278人、12/14 102人、1/25 120人、3/15 93人 / みやざきキッズサイエンスラボ 3/14 77人)						
⑤	宮崎少年少女発明クラブ	実施回数	19回	参加者数	合計	841人
⑥	光るどろだんご教室	実施回数	2回	参加者数	合計	123人
⑦	科学技術週間工作教室	実施回数	2回	参加者数	合計	224人
⑧	自由研究サポート教室	実施回数	1回	参加者数	合計	1人
⑨	なんでもサイエンス	実施回数	12回	参加人数	合計	1,219人
⑩	コスモランド教室	実施回数	10回	参加人数	合計	1,910人
⑪	サイエンス親子学習教室	実施回数	1回	参加人数	合計	41人
⑫	大人のための科学教室	実施回数	1回	参加人数	合計	15人

(2) プラネタリウム親子学習教室

学校での天文学習の補充と深化を目的に、小学4年生及び6年生、中学3年生向けの学習プログラムを行った。事後の感想も好評であった。

実施回数	小学4年生対象	2回	参加者数	合計	281人
	小学6年生対象	1回	参加者数	合計	104人
	中学3年生対象	1回	参加者数	合計	33人

(3) プログラミング教室【レベルアップ】

学習指導要領の改訂に伴い、令和2年度から小学校でプログラミング学習が始まった。そこで、基礎から学ぶ機会を学校現場以外でも子どもたちに提供するため、プログラミングに初めて接する子どもたちに、タブレットを使って簡単な操作でプログラミング通りにドローンを動かすことができ、論理的思考を学習できる体験教室を行った。今回は、1日間コースの受講によるレベルアップカリキュラムを組んだ教室を2日間実施した。

開催期日	令和7年9月14日（日）・15日（月・祝）
対象者	小学3年生～中学生
参加者数	99人

(4) プログラミング教室【小学1・2年生】

宮崎学園短期大学と連携し、パソコンの基本操作やスクラッチプログラムを使ったゲームを通して、小学校低学年向けのプログラミング教室を実施した。

開催期日	令和7年11月22日（土）
対象者	小学1年生～2年生

参加者数 76人

3 プラネタリウム事業

世界最大級である直径27mのプラネタリウムに3万8千個の星々を映し出す恒星投映機や全天ビデオ投映システムを生かし、一般番組や学習番組の投映を行った。

入場者数 延べ 57,222人

投映回数 826回

(1) 一般番組

- ・永久投映権をもっている番組
「星になったチロ」「オズのまほうつかい」「むしむし星空大行進」
「今夜銀河の片隅で」「DARK」「宇宙への旅」「宇宙への第一歩」
「宇宙のエネルギー」「ピーターパンのぼうけん」「太陽」「見えない宇宙に挑む」
「国際宇宙ステーションからの眺め」「ゆるり星空めぐり 北極星を見つけよう！」
- ・令和7年度から投映した新番組
「火星・赤い惑星の謎」・「忍たま乱太郎の宇宙大冒険 with コズミックフロント☆NEXT 土星めぐりでシャッターチャンス」の段」・「花鳥風月 星ごよみ」・「ちびまる子ちゃん 南十字星に魅せられて」
- ・令和7年度の再投映番組
「クレヨンしんちゃん 星空と学校の葉は不思議だゾ!」・「キトラ古墳壁画 天文図と中国星座の世界」

(2) 学習番組

- 「むしむし星空大行進」(小学1・2年生向け)
- 「スタジオ444」(小学3・4年生向け)
- 「国際宇宙ステーションからの眺め」(小学5年生向け)
- 「ポワンとフーニャンの宇宙調査隊」(小学6年生向け)
- 「ゆるり星空めぐり 北極星を見つけよう!」(中学1・2年生向け)
- 「この空に願いをこめて…」(中学生3年生向け)

(3) 自主製作番組

- 「ひむか神話～太陽の女神・アマテラス」

(4) 星空教室

プラネタリウムホールを利用して、幼児から一般を対象に、季節の星座や神話、天文の基礎を紹介し、天体や宇宙の基礎的な認識を深めるとともに、興味・関心を持ってもらうよう努めた。

実施回数 9回 参加者数 合計 514人

(5) スターウォッチング教室

宮崎市、国富町、綾町の団体を対象に、応募団体の希望の会場に出向き、天体の基礎的な学習と天体観察を行った。望遠鏡などを用いた体験から、天文や宇宙に興味・関心をもつていただくように努めた。

実施回数 4回 参加者数 合計 331人

(6) スターウォッチング in まちなか

中心市街地の活性化及び広報の場として、市街地(橋通り3丁目、市民プラザ屋上)での観望会を開催した。

実施回数 2回 参加者数 合計 350人

(7) キッズアワー

幼児向けのプラネタリウムとして、通常暗いプラネタリウムを明るくし、子どもが自由に声を出したり動いたりして楽しめる内容の星や星座の話と、幼児向けの番組の投映を行った。

実施回数 12回 参加者数 合計 1,814人

(8) 皆既月食観望会

宇宙・天文への興味関心の向上、天文現象を身近に感じてもらうことを目的として、宮崎科学技術館横の宮崎中央公園内で「皆既月食」の観察会を3月3日（火）に開催した。

実施回数 1回 参加者数 220人

(9) 名月展2025「お月さまランタンをつくろう」

名月展開始イベントとして、先着50名で行う「お月さまランタン」の工作を実施した。

開催期日 令和7年10月4日（土）

実施回数 1回 参加者数 32人

(10) 名月展2025「中秋の名月前夜祭観望会」と「名月音楽会」

日本古来の文化である「お月見」を身近に感じてもらうこと、そして宇宙・天文への興味関心の向上を目的として、宮崎科学技術館ロケット前広場と中央公園芝生広場にて「中秋の名月前夜祭観望会」と名月音楽会（出演：和太鼓&篠笛ユニット かんがみぞ）を開催した。

開催期日 令和7年10月5日（日）

参加者数 210人

(11) 名月展2025「おはよう月の観望会」

宮崎科学技術館玄関前広場で、普段はあまり注目しない朝の青空に浮かんだ月を天体望遠鏡で観察する。

開催期日 令和7年10月13日（月・祝）・14日（火）

参加者数 合計 200人

(12) SORA-Q 操縦体験

企画展「キッズ・スペース・ラボ 宇宙を遊びつくせ！」に併行して時間制プログラムを組んで、小型月面実証機 SLIM に搭載された変形型月面ロボット SORA-Q の操縦体験を土日祝及び、お盆中に開催した。

開催期日 令和7年7月12日（土）～8月31日（日）20回

参加者数 合計 180人

4 文化振興事業

(1) 星空と音楽の夕べ

宮崎出身者や現在宮崎で活躍している音楽家に活動の場を提供するとともに、市民文化活動高揚に資するため、プラネタリウムホールで7月と9月に開催した。星空解説と音楽の生演奏という2部構成でのコンサートを実施した。

実施回数 2回 参加者数 合計 353人

(2) キラキラ星空コンサート

「星空と音楽の夕べ」より気軽に楽しんでいただくために、平成18年度からスタートしたコンサートであり、県内で活躍されている演奏家によるコンサートを5月と12月に実施し、幼児から高齢者までの幅広い年齢層の方に楽しんでいただいた。

開催期日 令和7年5月11日（日）・令和7年12月7日（日）

参加者数 280人 160人 合計 440人

(3) 星空さんぽ in プラネタリウム（ほしともラジオ）

「勤労感謝の日」に新感覚のプラネタリウムの生解説。多くの市民がプラネタリウムをさらに利用しやすくするため、そして天文・宇宙に興味関心をもっていただけるよう、ラジオを聴いているかのようにリラックスして楽しめるような内容とした。

実施回数 1回 参加者数 76人

(4) えほんの読み聞かせ in プラネタリウム

プラネタリウムホールの有効活用と子どもたちの情操教育を目的として、奇数月に幼児から一般を対象に、絵本の読み聞かせを実施した。ドームシアターを利用して、絵本を大きく投影する演出をすることで、プラネタリウムホールを幅広く体感してもらえるように努めた。

実施回数 6回 参加者数 合計 896人

5 イベント事業

(1) 主催事業

- ① 企画展「キッズ・スペース・ラボ 宇宙を遊びつくせ」(新規事業)
模擬的に宇宙飛行士のお仕事体験や適正テストなどを行い、宇宙という非日常的な世界を楽しく体験することで、天文・宇宙への興味関心を高めるよう、「宇宙飛行士」をテーマにした企画展を実施した。
開催期日 令和7年7月12日(土)～8月31日(日)
開催場所 多目的室
参加者数 合計 2,512人
- ② 企画展関連工作教室「MISSION!うちわを完成させよ!」
図形パズルを通して宇宙飛行士の大事な資質でもあるコミュニケーション力を鍛え、宇宙飛行士訓練を体験し、つくったパズルをうちわにしてお持ち帰りしていただいた。
開催期日 令和7年8月2日(土) 令和7年8月9日(土)
参加者数 53人 45人 合計98人
- ③ トイレ美術館
館内トイレの壁面を活用して、職員が撮影した県内の空や天体写真を展示し、環境美化と癒しの空間づくりを行った。
開催期日 令和7年4月1日(火)～令和8年3月31日(火)
開催場所 館内トイレ内
- ④ こいのぼり掲揚式
近隣の幼稚園・保育所等を招き、正面玄関前でこいのぼり掲揚式を行った。その後、プラネタリウム投映を観覧した。最後に、当館で用意したミニこいのぼりを園児にプレゼントした。
開催期日 令和7年4月4日(金)
参加者数 計 20人
- ⑤ 「科学と遊ぼう!こどもの日」
こどもの日にちなみ、中学生以下の入館料を無料とした。また、エンジョイサイエンス「しゃぼん玉で遊ぼう」を実施した。
開催期日 令和7年5月5日(月・祝)
来場者数 計 1,338人
- ⑥ 第66回科学技術映像祭入選作品上映会
日本科学技術振興財団等の主催による科学技術映像祭の入選4作品を、1階展示室で上映した。質の高い映像から科学技術への関心が喚起され、その普及について啓発することができた。
開催期日 令和7年12月20日(土)～令和8年1月12日(月・祝)16日間
入場者数 延べ 5,302人
- ⑦ スペシャルサイエンスショー
子どもたちの科学への興味・関心を育むことを目的に、インストラクターが企画し、①・②『どうして「みえる」のかな～光と色のサイエンス～』、③『みえないなぞを調査せよ!水蒸気追跡ファイル!』をテーマとしたサイエンスショーを開催した。人気のショーであり、本年度は3回実施した。
開催期日 ①令和7年5月4日(日・祝) ②令和7年6月15日(日)
③令和8年1月12日(月・祝)
入場者数 ①186人 ②161人 ③128人 合計475人
- ⑧ 南極クラス
南極で実際に生活した越冬隊員(堀川 秀昭氏)による講話を通して、南極の生活や自然環境に

ついでに関心を高め、地球環境を学ぶ機会を設けるとともに、越冬隊員が実際に南極で着用していた防寒着や、実際の生活の様子をVTRの視聴を通して、疑似体験的に学べるようにした。

開催期日 令和7年6月29日(日)

入場者数 81人

⑨ 青少年のための科学の祭典2025宮崎大会

小中学校・高校の理科教諭、大学関係者、一般企業と連携し、科学や科学技術の不思議さや楽しさを身近に体験できる22の実験ブースを出展し、科学の面白さを実感してもらうとともに、科学及び科学技術に対する関心を高める活動を実施した。

開催期日 令和7年9月20日(土) ・ 9月21日(日)

参加者数 1,266人 1,599人 合計 2,865人

⑩ 教員のための博物館の日(事務局経営戦略課事業)

教職員やその子ども、大学の教職希望者、博物館関係者等を対象に博学連携を目的とし、県立西都原考古博物館、大淀川学習館、生目の杜遊古館と共同し、ワークショップを宮崎科学技術館および大淀川学習館で行った。

開催期日 令和7年7月31日(木)

参加者数 11名

⑪ JSC不思議なサイエンスショー

JSCによる「超低温の世界」と「静電気で遊ぼう」をテーマにした実験ショーを実施した。

開催期日 ①令和7年7月6日(日) ②令和8年2月11日(水・祝)

参加者数 ①166人 ②計99人 合計265人

⑫ 敬老の日無料開放日

敬老の日になみ、高齢者(65歳以上)の入館料を無料とした。

開催期日 令和7年9月15日(月・祝)

来場者数 計932人

⑬ キッズおしごとランド

宮崎科学技術館の展示室・プラネタリウムの職場体験プログラムを作成し、小学生4～6年生に職場体験をしてもらうイベントを実施した。

開催期日 令和7年10月12日(日)

参加者数 計14人

⑭ 名月展2025 ～ go to the moon,その先へ ～

隔年開催しているプラネタリウム職員による企画展。令和7年度は「月」をテーマに、日本の月調査の最前線に注目し、SLIMやアルテミス計画についてパネルや体験展示、えほんの読み聞かせin名月展などの関連イベント等を実施した。

開催期日 令和7年10月4日(土)～11月3日(月・祝)

入場者数 計10,029人

⑮ 令和7年度宇宙画作品展

児童・生徒の創造性の育成を図り、宇宙及び宇宙開発に関する興味・関心を高めるため、宇宙をテーマにした84の絵画作品を展示した。小・中学生から185点の応募があり、うち21名の入賞者を対象に、表彰式を実施した。

開催期日 令和7年11月15日(土)～12月7日(日)

表彰式 令和7年12月7日(日)

参加者数 合計2,314人(うち39人は、表彰式出席者)

⑯ トワイライトミュージアム

英国国立研究所が行う科学実験講座「クリスマスレクチャー」を参考に、開館時間を延長してトワイライトミュージアムを開催した。宮崎科学技術館オリジナルで子どもたちへ“科学をクリスマスプレゼント”をコンセプトに、館内展示物を分かりやすく解説したり、クイズラリーを行っ

たり、いつもとはちよっぴり違った科学館を来館者に届けた。

開催期日 令和7年12月20日(土)

入場者数 824人

⑰ タカタ先生のおもしろ算数ショーinプラネタリウム ～科学と星と算数のヒミツ!～

数学教師芸人「タカタ先生」を招聘し、星空(プラネタリウム)とサイエンスショーをコラボレーションさせ、エンターテイメント性の高いショーイベントを行った。トワイライトミュージアムのテーマ「クリスマスレクチャー」に合わせ、科学と星と算数のヒミツをテーマにサイエンスショーを行い、恒星投影機を用いて星の名前や天文現象についての解説も加えて実施した。

開催期日 令和7年12月20日(土)

入場者数 301人

⑱ アウトリーチ事業

館外で実験教室や授業支援を行い、教育施設の支援や、イベントや市街地活性化の取組を支援した。

○若草通り「街市」

開催期日 ①令和7年5月24日(土) ②令和8年3月28日(土)

内 容 「マイクロSCOPE体験」「VR体験」「紙コップ皿回し」

参加者数 ①100人 ②54人 合計154人

○未来みやぎ子育て応援フェスティバル2025

開催期日 令和7年11月8日(土)・9日(日)

場 所 宮交シティ3階 紫陽花ホール

内 容 サイエンス工作「種模型の製作」

参加者数 合計 470人

⑲ インターンシップ、職場体験、学芸員資格取得実習、実践活動

中学生の職場体験学習や高校生のインターンシップ、及び大学生等の学芸員資格取得実習の受け入れをし、青少年の健全育成に貢献するとともに、当館の運営や事業、業務に理解をしていただく機会とした。県立宮崎工業高等学校4名2日間、市立大淀中学校4名2日間、市立赤江東中学校4名3日間、市立大塚中学校4名2日間、市立宮崎東中学校4名1日間、市立木花中学校3名3日間(台風15号接近に伴い2日間に変更)、市立大宮中学校4名2日間、市立宮崎西中学校3名3日間、市立東大宮中学校3名3日間、市立櫛中学校4名2日間を受け入れ、キャリア教育、来館者案内、サイエンス事業補助、プラネタリウム模擬投映等の体験を行った。

学芸員資格取得実習のため、宮崎大学教育学部2名、工学部2名を8月10日(日)～22日(金)の期間中に5日間受け入れた。さらに、宮崎ビジネス公務員専門学校の実践活動を5月～3月までの10か月、21名受け入れた。また、障害者雇用をサポートするために職場見学、インターンなどの機会を設け、社会人1名を10月21日(火)の1日間、受け入れた。

参加者数 合計 63人

⑳ 宮崎市教育委員会新規採用教職員初期研修

宮崎市に勤務する小・中学校の新規採用教職員に対して、教育施設を活用した授業づくりについての研修を行い、実践的指導力を向上させる機会とした。

開催期日 令和7年11月11日(火)

参加者数 31人

㉑ 宮崎大学理科教育基礎研究フィールドワーク授業

学校以外の関係機関と連携した理科学習を探ることを目的に、地域の科学館におけるフィールドワークを実施し、施設の概要及び管理運営についての説明、展示物解説、プラネタリウム視聴を行った。

開催期日 令和7年7月12日(土)

参加者数 10人

㉒ 科学技術週間工作教室

科学技術週間に合わせて、工作教室を実施した。多くの親子がスカイスクリーンの製作を行い、

製作後は作ったスカイスクリーを楽しそうに飛ばしていた。

開催期日 令和7年4月19日(土)・20日(日)

参加者数 224人

② 授業づくりサポート事業(事務局経営戦略課事業)

学習学校教育支援の一環として、宮崎市・国富町・綾町の小学校理科担当教諭(東諸県郡小学校理科主任会6名)に対し、理科の授業づくり全般のサポートを行った。また、各学校における理科教育の向上のために、大淀小学校5年生107名、江南小学校4年生84名、各自の課題に応じた適切な支援を行った。

開催期日 令和7年6月23日(月)・6月24日(火)

7月18日(金)・12月2日(火)

参加者数 197人

④ 移動販売車招聘

宮崎駅東地区の賑わい創出及び地域連携の一環として、玄関前を活用し、「移動販売車の招聘」を行った。

開催期日 令和7年4月～令和8年3月

開催場所 宮崎科学技術館 玄関前

(2) 共催事業 ()は主催者名

① 航空教室 実施日 令和7年5月31日(土) 参加者数 24人
(航空大学校) 令和8年2月21日(土) 参加者数 19人

② 輝け!未来の科学者育成事業「宮崎地区サイエンスコンクール」
(輝け!未来の科学者育成推進委員会、宮崎地区実行委員会)
実施日 令和7年9月5日(金)～9月11日(木)
入場者数 合計 301人

③ みんなでデコ活2025 実施日 令和8年1月31日(土)・2月1日(日)
(宮崎県地球温暖化防止活動推進センター)
入場者数 合計 340人

④ 宮崎県学校発明くふう展 実施日 令和7年10月17日(金)～19日(日)
(宮崎県発明協会) 入場者数 合計 525人

⑤ 宮崎市中学校毛筆展 実施日 令和8年1月20日(火)～1月25日(日)
(宮崎市中学校書写部会) 入場者数 合計 749人

6 情報提供と広報活動

ICT(情報通信技術)を積極的に活用し、館の「YouTubeチャンネル」や「SNS(Instagram、フェイスブック、X)」を用いた情報提供や広報活動を行った。また、ホームページを一部改良し、教室講座の内容を写真付きで紹介し、教室講座毎に申込ページを新設することで、申し込みの利便性の向上を図った。

宮崎市歴史資料館

【宮崎市生目の杜遊古館】

I 管理運営事業

令和5年度から5か年の指定管理を受け、宮崎市生目の杜遊古館の管理運営業務について展示物の適切な管理、施設維持のための保守・点検を実施するなど、健全で効率的な管理運営に努めた。

(1) 施設利用状況・利用内訳

①開館日数・入館者数等

開館日数	305日		
入館者数	33,978人	年齢別内訳	
		小人	大人
		9,113人(26.8%)	24,865人(73.2%)
		形態別内訳	
		個人	団体②
		25,648人(75.5%)	8,330人(24.5%)
1日平均入場者数	111人		

②団体利用の属性・地域別内訳

属性	県内				小計	県外③		合計	
	広域圏内 (宮崎市・国富町・綾町)		広域圏外 (左記以外)			人数(人)	比率		人数(人)
	人数(人)	比率	人数(人)	比率					
幼稚園・保育所等	327	4.1%	0	0.0%	327	0	0.0%	327	
小学校	1,247	15.7%	0	0.0%	1,247	0	0.0%	1,247	
中学校	91	1.1%	30	15.2%	121	0	0.0%	121	
一般	6,264	79.0%	168	84.8%	6,432	203	100.0%	6,635	
合計	7,929	100.0%	198	100.0%	8,127	203	100.0%	8,330	

③県外地方別団体利用内訳

県外地方別団体利用内訳			
地域	団体数	人数	比率
熊本	1	7	3.4%
鹿児島	1	10	4.9%
九州・沖縄	2	17	8.4%
関東	7	103	50.7%
関西	3	75	36.9%
四国	1	8	3.9%
合計	13	203	100.0%

※構成比は四捨五入しているため、合計が100%にならない場合があります。

II 主要事業

1 企画展「武士の日常」

佐土原藩・高岡郷など宮崎の武士の日常の生活ぶりを史資料により展示紹介した。

a 開催期日 令和8年1月24日(土)～3月8日(日)

b 対象者 一般市民

c 観覧者数 3,864人

d 事業の成果と社会的価値

参加者アンケートの結果、97.1%が「満足」、「やや満足」と回答した。今回、NHK 宮崎放送局などマスコミ報道で大きく宣伝周知ができ、市民の興味関心も高く、前回企画展以上の観覧者があった。地元宮崎の武家社会の周知という社会的課題の解決に向けた直接的な成果を確認することができた。

- e 今後の改善策 資料について「達筆すぎて内容が読めなかった。」や撮影禁止について不満の意見があったため、次回は展示資料のリスト一覧や翻刻文等を掲載した資料の配付を行い、撮影禁止についてはその理由の丁寧な説明に努めるなど改善を図る。

2 歴史文化講座

宮崎の歴史・文化について、外部専門家を講師として招いたほか当館館長を含め10回の講座を実施した。

- a 内容(演題) 「日本書紀歌謡考～馬ならば日向の駒～」、「野生動物と動物園～動物園の歴史～」、「宮崎の戦争 その6」、「島津荘成立拠点地域における平安時代の遺跡について」、「よみがえる江戸時代の宮崎ー支配を支えた人々ー」、「江戸の文化人・戯作家と狂歌連-」、「大淀川 (の成り立ち) と生目 (のこと)」、「ブリコラージュ満載、宮崎の神楽の魅力」、「近代の宮崎を創った人びとー明治～大正期の水力発電と鉄道を中心にー」、「江戸の園芸ー流行と大名庭園ー」

b 開催期日 令和7年4月26日(土)ほか

c 対象者 一般市民

d 参加者数 487人

e 事業の成果と社会的価値

受講者アンケートの結果、88.7%が「満足」、「やや満足」と回答した。宮崎の地域史への理解、日本の歴史・文化の普及啓発という社会的課題の解決に向けた直接的な成果を確認することができた。

- f 今後の改善策 「パワーポイントと同じ資料を提供してほしい」、「講師の声が聞き取りにくい」との意見があったため、次年度は講師へ配布資料作成について要望するとともに音響環境の改善を図る。

3 体験学習

「革細工のコースターづくり」等の古代のモノ作り体験や昔の人々の暮らしと関連した「ミニ門松づくり」等の製作体験を行うもので、子どもと保護者及び一般の参加者を対象に実施した。

a 実施回数 18回

b 実施内容 「革で作る素敵なコースター」、「いいね！おしゃれな勾玉」、「体験！古代の編布(アングイン)」、「はにわ作りって楽しいな！」、「いにしへの鏡に感激！」、「色が奏でる組み紐作り」、「からくりおもちゃって不思議！？」、「藍染ってエレガンス！」、「作って遊ぼう！竹のけん玉」、「アウトドアで古代体験！」、「クリスマスリースはいかが？」、「古代米の餅をペッタン！」、「ミニ門松でお正月飾り」、「石臼きな粉でおいしい古代米団子」、「マイ竹馬であそびましょ！」、「作ってみよう！竹のマイ箸」、「かまどでおいしい古代パン」、「草木で染め出す和の色合い」

c 開催期日 令和7年6月8日(日)ほか

d 対象者 子ども(保護者同伴)・一般

e 参加者数 382人

f 事業の成果と社会的価値

受講者アンケートの結果、99.6%が「満足」、「やや満足」と回答した。モノづくりを通じて昔の生活様式や歴史に子どもや親子で直接触れる機会の創出という社会的課題の解決に向けた直接的な成果を確認することができた。

g 今後の改善策 「抽選の当落がわかりづらい」、「申込方法がわかりづらい」と受講方法についての意見があったので改善について検討している。

Ⅲ その他事業

1 常設展示事業

展示室1では旧石器時代から近現代に至る宮崎市域の歴史について、展示室2では国指定重要文化財である「下北方5号地下式横穴墓出土品」について、展示室4では隣接する国指定史跡生目古墳群や宮崎市内の遺跡から出土した埋蔵文化財について展示・紹介した。

2 企画展示事業

上記企画展「武士の日常」以外に展示室3で次の企画展示を行った。

(1) 企画展「絵・画・図!『え』にまつわる資料展」

親しみやすいテーマである「絵・画・図」を持つ歴史・民俗資料の展示を通して、地域の歴史に興味・関心を持ってもらえる機会を提供した。

開催期日 令和7年10月18日(土)～12月7日(日)

観覧者数 4,837人

3 歴史文化振興・教育普及事業

(1) みんなの考古学講座

宮崎市内の遺跡や遺物に関する講座として、宮崎市教育委員会文化財課の専門職員による発掘調査の成果や埋蔵文化財の最新情報を解説した。

実施回数 5回

内容(演題) 「木と鉄の道具が語る「みやざき」の前方後円墳築造前夜～その時、何が起こったか～」

「3Dで土器を観察する～考古学研究の新しい視点～」

「鏡よ鏡、鏡さん～宮崎における古墳時代の鏡～」

「いい仕事してますねえ～江戸時代の陶磁器鑑定入門編～」

「縄文時代の交流史～気候変動とヒトの動き～」

参加者数 186人

(2) 古文書講座(中級編)

宮崎市市史編さん室の専門職員を講師に迎え、歴史資料館所蔵の古文書を使用して、古文書に触れたことのある市民を対象に解説演習の中級編を行った。

実施回数 5回 テキスト『日高次吉文書 新聞雑書集』(宮崎市佐土原歴史資料館所蔵)

参加者数 76人

(3) 歴史文化体験(大人も子どももわくわく!学芸員講座)

当館学芸員による歴史や文化にまつわる講座やモノ作り体験を実施した。

実施回数	4回（6月、8月、12月、2月）
実施内容	「古文書基礎知識」、「古文書を読んでみよう」、「オリジナルはがき作り」、 「船乗りはつらいよ（座学）」
参加者数	38人

（4）古代体験プログラム

土日祝日に事前申込み不要でだれでも気軽に勾玉・はにわ作りが楽しめる。

実施回数	66回（4月～3月）
参加者数	776人

（5）学校教育等との連携

学校教育や幼児教育等への支援として、勾玉づくりやチャレンジゲーム、史跡ウォークラリーといった体験活動や展示室・生目古墳群見学などのプログラムを実施した。

小・中学校・高等学校	来館校数	19校
	来館者数	1,407人
幼稚園・保育所	来館園数	11園
	来館者数	327人

その他

- ・地域住民向けの出前講座等 7回 194人
- ・宮崎市児童生徒作品展 観覧者 2,878人
- ・中学生職場体験 参加3人

4 イベント事業

（1）こどもの日特別企画

a 「遊古館こどもチャレンジ」

ゴールデンウィークの5月3日（土・祝）に子どもを対象としたイベントとして、館内シールラリーやミニこいのぼり・紙かぶとづくり、昔の遊び体験（竹馬・竹ぼっくり・竹とんぼなど）を実施した。

参加者数	大人	208人
	子ども	112人
	計	320人

b 古代体験こどもの日スペシャル「勾玉づくり」

通常の個人体験「勾玉づくり」を子ども対象に無料で実施した。

参加者数	大人	33人
	子ども	38人
	計	71人

（2）遊古館デイキャンプ

日中から日没後にかけて、宿泊を伴わないデイキャンプを2回実施した。火おこし体験や飯盒炊飯とともに、1回目は大淀川学習館職員の指導により昆虫飼育講座を行った。（雨天のため生き物採集ができなかった。）2回目は火起こし体験・カレー炊飯に加え館内ウォークラリーを体験した。

【1回目】令和7年7月12日（土） 16：00～21：00 28人

(3) レッツ！タイムワープ in 遊古館

小学4～6年生を対象とした連続講座として、歴史・民俗学など昔の人々の生き方を辿りながら、SDGsの理念に沿って、体験し学ぶプログラムを実施した。

実施回数 5回

参加者数 113人

なお、第3回では伝統文化の日本舞踊・茶道について専門家の指導により受講生が日本舞踊を体験、披露するとともに呈茶体験をし、一般体験参加者を含め57名が参加した。

(4) 歴史3館シールラリー

宮崎市歴史資料館3館（生目の杜遊古館・佐土原歴史資料館・天ヶ城歴史民俗資料館）を広く周知し相互利用の促進を図るため、3館を巡り、クイズ形式のシールラリーを開催した。

開催期間 令和8年2月7日（土）～3月1日（日）

参加者数 150人

達成者数 70人

(5) みやざき生目古墳まつり応援事業「生目の杜遊古館 de 歴史遊び」

宮崎市文化財課主催の「生目古墳群 de ピクニック」に合わせ、勾玉づくりやシールラリー、竹馬等の昔の遊び体験を史跡公園会場ブースや遊古館展示室等で実施した。

また、「みやざき歴史キッズ2025」を市と共催し、小学生28人が参加した。

開催期日 令和7年11月15日（土）

参加者数 551人

5 資料収集、調査・研究等

- ・市民の資料に関する照会・相談を受けたほか、「令和6年度宮崎市歴史資料館 研究紀要」を刊行した。
- ・展示室について温度・湿度管理などを行い適切な管理を行った。

6 情報提供と広報活動

行事カレンダー・各種チラシ等を学校・地区交流センター等各方面に配布するとともに市広報や各種情報誌を活用して参加者募集など利用案内の広報活動を積極的に行った。

I C T（情報通信技術）も積極的に活用し、ホームページやSNS（インスタグラム、フェイスブック）を用い随時情報提供や広報活動を行った。

※佐土原歴史資料館、天ヶ城歴史民俗資料館についても同じ。

【宮崎市佐土原歴史資料館】

I 管理運営事業

令和5年度から5か年の指定管理を受け、宮崎市佐土原歴史資料館の管理運営業務を行い、展示物の適切な管理、施設維持のための保守・点検を実施するなど、健全で効率的な管理運営に努めた。

(1) 施設利用状況・利用内訳

①開館日数・入館者数等

開館日数	137日		
入館者数	9,138人	年齢別内訳	
		小人	大人
		2,130人 (23.3%)	7,008人 (76.7%)
		形態別内訳	
		個人	団体②
		8,454人 (92.5%)	684人 (7.5%)
1日平均入場者数	67人		

②団体利用の属性・地域別内訳

属性	県内				小計	県外③		合計
	広域圏内 (宮崎市・国富町・綾町)		広域圏外 (左記以外)			人数(人)	比率	
	人数(人)	比率	人数(人)	比率				
幼稚園・保育所等	0	0.0%	0	0.0%	0	0	0.0%	0
小学校	339	61.4%	0	0.0%	339	0	0.0%	339
中学校	0	0.0%	0	0.0%	0	0	0.0%	0
一般	213	38.6%	31	100.0%	244	101	100.0%	345
合計	552	100.0%	31	100.0%	583	101	100.0%	684

③県外地方別団体利用内訳

県外地方別団体利用内訳			
地域	団体数	人数	比率
福岡	1	55	54.5%
大分	0	0	0.0%
鹿児島	2	26	25.7%
九州・沖縄	3	81	80.2%
中部	0	0	0.0%
関東	1	20	19.8%
東北	0	0	0.0%
合計	4	101	100.0%

※構成比は四捨五入しているため、合計が100%にならない場合があります。

【臨時休館】

※4/5～4/6において鶴松館を大手門北塀倒壊により臨時休館

※4/1～3/31において商家資料館「旧阪本家」を地震により臨時休館

II 主要事業

1 「チャレンジ77佐土原旧跡巡り①～③」

佐土原藩島津家に関連する旧跡や社寺等の中から、各回毎のテーマに沿ったものを巡りながら佐土原の歴史や文化を学び、関心を高めた。

a 開催期日 令和7年10月11日（土）、令和8年1月17日（土）、2月21日（土）

b 対象者 一般市民

c 参加者数 66人

d 事業の成果と社会的価値

参加者アンケートの結果、100%が「満足」、「やや満足」と回答した。

参加者から「佐土原の歴史について学べてよかった」との意見が多く目的を達成できたと考える。

e 今後の改善策 一部に「説明について大きな声でゆっくりとしてほしかった。」「暑かったので時期を変えたら」との意見があったので、わかりやすい説明や適切な時期を検討する。

Ⅲ その他事業

1 常設展示事業

(1) 鶴松館

江戸期の佐土原城二の丸居館跡の発掘調査をもとに城館を再現した「鶴松館」では、佐土原藩にまつわる掛軸・屏風・鎧兜などや、佐土原島津家の調度品を展示するとともに、地元で伝承される佐土原人形を展示した。藩主が日常政務をとる場の外観を再現した書院では、古代から近代にかけての佐土原の歴史について、各時代の資料を展示し解説した。

(2) 商家資料館「旧阪本家」

江戸期から味噌や醤油の醸造販売を手がけていた商家「旧阪本家」（明治38（1905）年築、重層入母屋造。市指定有形文化財・市景観重要建造物）を資料館として、1階に机や銭箱などを配した帳場を再現し、2階に当時の商いに関する資料や城下の町並みの古写真を展示している。

ただし、令和6年8月の地震により、文化財建造物としての耐震性の懸念から令和7年度中は休館となった。

2 企画展示事業

企画展「佐土原の昭和を振り返る～昭和100年によせて～」

昭和100年にちなみ佐土原の昭和時代のあゆみを写真・パネル等で紹介・解説した。

開催期日 令和7年11月1日（土）～12月28日（日）

観覧者数 1,684人

3 歴史文化振興・教育普及事業

(1) 体験学習

子ども（小学生以上）と保護者等を対象に、鶴松館での日本の伝統文化を体験した。

実施回数 7回

内 容 「お城で茶道体験」、「お城で生け花体験」、「チャレンジ77佐土原旧跡巡り①～③」（再掲）「お城で香体験」、「お城で寄せ植え体験」

参加者数 126人

(2) 学校教育等との連携

学校教育において社会科学習や総合的な学習等による学校の団体利用があった。また学校や地域団体を対象とした出前事業を実施した。

① 団体利用

小学校	来館校数	4校
	来館者数	188人

② 出前授業・研修

参加数	4件	(うち2件は学校。その他は地域づくり協議会 など)
参加者数	296人	

4 イベント事業

(1) お城でコンサート

伝統建築の鶴松館で歴史の風情を感じながら、生演奏のコンサートを夜に開催した。

開催期日	令和7年10月28日(火)
参加者数	37人

(2) 佐土原花しょうぶまつり(共催事業)

地元の花しょうぶまつり実行委員会と共催で鶴松館西にある花しょうぶ園をメイン会場として、まちおこしを目的とした花しょうぶまつりを実施した。鶴松館では、神代独楽体験や野点のほか大正琴や演歌・日本舞踊のステージコンサートなど多数のイベントが行われ、多くの来場者でにぎわった。

開催期日	令和7年6月1日(日)
参加者数	1,888人

5 資料収集、調査・研究等

- ・市民より歴史資料1点の資料寄贈を受けた。
- ・3月に宮崎市天ヶ城歴史民俗資料館にて2施設合同で簡易燻蒸庫による資料の殺菌・殺虫燻蒸を行ったほか、展示室について適切な管理を行った。

【宮崎市天ヶ城歴史民俗資料館】

I 管理運営事業

令和5年度から5か年の指定管理を受け、宮崎市天ヶ城歴史民俗資料館の管理運営業務を行い、展示物の適切な管理、施設維持のための保守・点検を実施するなど、健全で効率的な管理運営に努めた。

(1) 施設利用状況・利用内訳

①開館日数・入館者数等

開館日数	138日		
入館者数	15,949人	年齢別内訳	
		小人	大人
		5,837人 (36.6%)	10,112人 (63.4%)
		形態別内訳	
		個人	団体②
		12,819人 (80.4%)	3,130人 (19.6%)
1日平均入場者数	116人		

②団体利用の属性・地域別内訳

属性	県内				小計	県外③		合計
	広域圏内 (宮崎市・国富町・綾町)		広域圏外 (左記以外)			人数(人)	比率	
	人数(人)	比率	人数(人)	比率				
幼稚園・保育所等	54	1.8%	0	0.0%	54	0	0.0%	54
小学校	2,703	90.7%	0	0.0%	2,703	0	0.0%	2,703
中学校	0	0.0%	0	0.0%	0	0	0.0%	0
一般	224	7.5%	41	100.0%	265	108	100.0%	373
合計	2,981	100.0%	41	100.0%	3,022	108	100.0%	3,130

③県外地方別団体利用内訳

県外地方別団体利用内訳			
地域	団体数	人数	比率
熊本	0	0	0.0%
大分	0	0	0.0%
鹿児島	0	0	0.0%
九州・沖縄	0	0	0.0%
中部	0	0	0.0%
関東	1	108	100.0%
東北	0	0	0.0%
合計	1	108	100.0%

II 主要事業

1 授業支援事業「昔の道具と人びとの暮らし」

当館所蔵の民俗資料（昔の道具）を活用し、小学校3年の社会科における「市のようすとくらしのうつりかわり」の学習等の充実に資することを目的として実施した。

- a 開催期日 令和7年12月2日（火）～令和8年2月6日（金）
- b 対象者 宮崎市、国富町、綾町の小学校
- c 実施校・参加者数 34校 2,576人
- d 事業の成果と社会的価値

実施校アンケートの結果、76.4%が「概ね良好」の回答であった。

特に教員からは現物を使った授業支援の方法により学習効果が高かったという声が多く、事業目的を達成できたと考える。

- e 今後の改善策 当館の主要事業ととらえているので実施校数を増加したいが、その人的体制・方法を工夫しながら改善していきたい。

Ⅲ その他事業

1 常設展示事業

大淀川とともに生きてきた旧高岡町の人々の歴史・文化・民俗を映像や民俗資料で紹介している。また薩摩藩の外城として栄えた江戸時代の高岡、穆佐の武家社会の様子などを甲冑や古文書などの歴史資料と、当時の町並みをイメージして作られた模型とともに解説している。見て、触れて、楽しく学びながら歴史・文化に親しみ、郷土愛を培う場を提供した。

2 企画展示事業

企画展「高岡今昔写真帖」

昭和100年にちなみ、高岡の歴史や街の変化を史資料により展示紹介し、高岡の歴史・文化に親しむ機会を提供した。

開催期日 令和8年3月15日（日）～4月14日（火）
観覧者数 2,776人（令和7年度入場者数）

3 歴史文化振興・教育普及事業

(1) 体験学習

子どもと保護者、一般を対象として、かぶとや弓矢などの昔ながらのおもちゃやミニ門松づくり、二見家住宅（宮崎県指定有形文化財）を活用した体験学習等を実施した。

実施回数 10回
内 容 「かぶとづくり」、「竹で万華鏡づくり」、「弓矢づくり」、「夏休みの図画作品にチャレンジ！[色、模様あそび]」、「水鉄砲づくり」、「凧づくり」、「天ヶ城でミニ門松づくり」、「二見家住宅でかまど炊飯体験」
参加者数 延べ 160人

(2) 学校教育等との連携

総合的な学習等による学校の団体利用があった。

小学校 来館校数 1校 来館者数 127人
幼稚園等 来園 3園 来館者数 74人

ほかに11月15日（土）、市国際交流協会主催により韓国：報恩郡中学生等40人が来館した。

4 イベント事業

(1) 高岡歴史かるたで遊ぼう

高岡町域の寺社仏閣・文化財・史跡・先人・物産といった事柄を取り扱った高岡歴史かるたを用い、高岡の歴史や文化を学びながらのかるた遊びを行うとともに、地元の高岡まちづくり委員会とかるた大会を共催した。

開催期日 第1回 令和7年 7月 6日（日）
第2回 10月 5日（日）

大 会 11月 2日(日)
講 師 高岡歴史かるた会 山口孝治氏ほか
参加人数 61人

(2) 高岡麓のまちなみを歩こう

歴史的な建造物や文化財が多くみられる高岡町麓地区のまちなみを散策し、故郷高岡に対する理解を深め、郷土愛を高める機会とした。

開催期日 令和7年5月25日(日)

参加者数 11人

5 資料収集、調査・研究等

- ・令和7年度は資料の寄贈がなかった。
- ・収蔵の古文書について翻刻作業を行った。令和7年度研究紀要に掲載予定
- ・3月に宮崎市佐土原歴史資料館と2施設合同で簡易燻蒸庫による資料の殺菌・殺虫燻蒸を行ったほか収蔵庫及び展示室について適切な管理を行った。

大淀川学習館

I 管理運営事業

令和5年度から5か年の指定管理を受けた3年目であり、大淀川学習館の適切かつ円滑な管理運営業務を行うため、展示物の工夫等を行うとともに、施設の維持管理、保守・点検などを実施し、健全で効率的な管理運営に努めた。

(1) 施設利用状況・利用内訳

①開館日数・入館者数等

開館日数	305日		
入館者数	97,641人	年齢別内訳	
		小人	大人
		53,789人 (55.1%)	43,852人 (44.9%)
		形態別内訳	
		個人	団体②
		87,146人 (89.3%)	10,495人 (10.7%)
1日平均入場者数	320人		

②団体利用の属性・地域別内訳

属性	県内				小計	県外③		合計	
	広域圏内 (宮崎市・国富町・綾町)		広域圏外 (左記以外)			人数(人)	比率		
	人数(人)	比率	人数(人)	比率					
幼稚園・保育所等	3,687	43.7%	279	13.8%	3,966	0	0.0%	3,966	
小学校	2,068	24.5%	594	29.3%	2,662	0	0.0%	2,662	
中学校	0	0.0%	23	1.1%	23	0	0.0%	23	
高等学校	20	0.2%	0	0.0%	20	0	0.0%	20	
大学・短期大学	52	0.6%	0	0.0%	52	0	0.0%	52	
特別支援学校	0	0.0%	0	0.0%	0	0	0.0%	0	
一般	医療・福祉	2,413	28.6%	1,097	54.1%	3,510	25	100.0%	3,535
	教育	125	1.5%	0	0.0%	125	0	0.0%	125
	その他	77	0.9%	35	1.7%	112	0	0.0%	112
合計	8,442	100.0%	2,028	100.0%	10,470	25	100.0%	10,495	

③県外地方別団体利用内訳

県外地方別団体利用内訳			
地域	団体数	人数	比率
福岡	0	0	0.0%
熊本	0	0	0.0%
鹿児島	3	25	100.0%
沖縄	0	0	0.0%
九州・沖縄	3	25	100.0%
関西	0	0	0.0%
合計	3	25	100.0%

※構成比は四捨五入しているため、合計が100%にならない場合があります。

II 主要事業

1 カブトムシ・クワガタムシに特化した事業

(1) 特別企画展「森の生き物と仲良くなろう！カブトムシ・クワガタムシ展」

内 容 子どもたちが、生命の尊さや生き物と触れ合う楽しさを体験的に理解するため、例年好評な大淀川流域に生息するカブトムシやクワガタムシに関する企画展を実施した。令和7年度は、似た特徴をもつ外国産と日本産のカブトムシやクワガタムシを近くに展示したり、オス・メスを一緒に展示したりするなどして、その特徴を比較できるように工夫を行い、これまでに展示されることのなかった種類についても展示を行った。また、成虫の生体展示だけでなく、採集や飼育のポイントを解説したパネルや採集・飼育に必要な道具、サナギとその飼育環境についての模型も展示した。

また、令和7年度から入場料を徴収した。（入場料は大人も子どもも関係なく1人100円、団体は1団体500円）

開催期日 令和7年7月19日（土）～8月24日（日）

入場者数 延べ 12,089人

(2) 教室事業

飼育・観察教室

対 象 小学生以上

実施回数 11回（全14回のうち、3回は中止）

参加者数 延べ 193人

内 容 「初めてのカブトムシ・クワガタムシ飼育教室」を3回、「カブトムシの幼虫を育てよう！」を1回実施した。カブトムシ・クワガタムシ関係以外で「目指せ！ムシはかせ」を7回計画したが、うち天候等のコンディション不良により3回が中止となった。その他「メダカの飼育教室」を3回実施した。

(3) 季節のイベント

対 象 全来館者（内容により年齢制限を設けているものもある）

実施回数 4回（7月に2回、11月に1回、12月に1回）

参加者数 延べ 178人

内 容 「カブトムシの木登り大会」、「クワガタムシのすもう大会」を実施した。カブトムシ・クワガタムシ関連以外で「クリスマスコンサート in 大淀川学習館」を、令和7年度新規事業として「大淀川学習館マスターになろう！」を実施した。

事業の成果と社会的価値

カブトムシ・クワガタムシ展は、国内外のカブトムシやクワガタムシを観察できるということでのその人気は高い。令和7年度も12,089人の入場者数を記録した。令和6年度のデータである28,508人は、期間中の全入館者数のため単純に比較することはできないが、令和7年度の入場者数は、入場料（100円）を徴収し、開催期間が例年より1週間短かったにもかかわらずこの数字というのは、カブトムシ・クワガタムシ展に根強い人気があることを示す数字である。また、有料化初年度で展示会の黒字化が図れたことも人気の高さを示している。今後も本館の貴重な収入源としての役割を果たしていくものと考えている。

カブトムシ・クワガタムシの「飼育教室」、カブトムシの「幼虫飼育教室」については、全参加者のうち97.2%が「良かった」、2.8%が「まあまあ良かった」と回答しており、参加者が大変満足している様子がうかがえる。また、自由記述に「カブトムシを大切に育てます。」や「幼虫をもらうことができてよかったです。しっかり成虫まで育てられるよう頑張ります。」、「年中の息子も真剣に話を聞いてよかったです。」などの表現が見られ、実際に生き物に触れ、持ち帰り飼育することになって、命を大切に感じる感情が芽生えていることが感じられる。ほかにも「他のお子さんの様子も刺激になってありがたいです。」という表記もあり、教室という空間

で同じ事柄を学ぶことにより、お互いの理解力を高める効果があることがうかがえる。

今後の改善策

カブトムシ・クワガタムシ展についてはもっと見たいという声を多く耳にする。夏のカブトムシ・クワガタムシ展以外にも、同じような展示ができないかということについて館内で検討した。時期をずらしてもカブトムシ・クワガタムシやその他の昆虫の展示もできるという結論に達した。令和8年度は、「【ミニ企画展】冬も見られる！カブトムシ・クワガタムシと昆虫展」と銘打った展示を実施することにした。夏ほど大きな展示ではないため、費用をかけず、小規模で実施するため入場料も徴収しない。また、冬場を実施することにより、一般の人の意識の中にある「冬に虫は見られない」という常識を壊し、来場者の少ない冬の集客を目指す。

カブトムシやクワガタムシなどの飼育教室については、興味のある大人について、費用が高額になってもっと本格的な教室ができないか検討中である。これにより、子どもをターゲットとした教室だけでなく、大人にも自然について考える場を提供しつつ集客力の向上を目指す。

2 自分の目で見て、手で触れることができる展示や教室事業

(1) 常設展示

① 生体展示（観察ステーション）

年間を通して、昆虫、水生生物、は虫類、両生類、植物などの生体の展示を行っている。生体の中には、絶滅危惧種のオオヨドシマドジョウや無料の展示ではなかなか見ることができないハナカマキリなども展示している。オオヨドシマドジョウについては大淀川水系でコウライオヤニラミが確認される以前は捕獲することができた。本館で飼育している生体は、コウライオヤニラミ確認以前に本館職員が捕獲した個体であり、飼育を継続している。一方、ハナカマキリは流通してはいるが高価で、全国昆虫施設連絡協議会に加盟している他の施設から譲り受けた珍しい昆虫である。

② 自然楽習園がくしゅう

自然楽習園がくしゅうでは、子どもたちの自然観察力を向上させるため、季節に応じてチョウの食草や蜜源植物を設置し、令和7年度は、年間6、106頭を放蝶することで、常時30～100頭を自然環境に近い状態で観察できるように維持した。採卵と幼虫の飼育において、気候とともに蛹化や羽化の時期が変化したり、食草や蜜源となる植物の生育とのバランスに苦心したりしたが、観察しやすいチョウを中心に安定して飼育することができた。

③ 生体展示ホール

大淀川の上流から日向灘までのつながりを一体的に学ぶ場として、小型水槽と大型水槽では、大淀川の上流域から河口域にかけて生息する魚を、円型水槽においては、日向灘に生息する海洋生物を展示した。日本三大怪魚のひとつであるアカメや、大淀川固有種のオオヨドシマドジョウ等の希少な生体からカニやカメ等の身近な生き物まで幅広く揃え、子どもの興味や視線の高さ、季節等に応じて、随時、配置換えを行った。アカメについては、昨年度に続き、一頭が亡くなったものの、バックヤードにて飼育していた幼魚を半円形水槽に移動して展示することができた。また、アカメの新たな個体をバックヤードに導入し、切れ目なく展示ができる体制をとることができている。また、メダカの飼育環境を整え、教室等で使用するメダカについて、館内で調達できるよう方向性をつけることができた。

④ ホタル展示室

水質保全意識の向上を図るため、清流の象徴であるゲンジボタルを展示した。成虫だけではなく、卵や幼虫、蛹の展示も行い、解説や飼育体験を通して、子どもたちの学習機会を確保した。令和7年度は幼虫の飼育が順調に進み、昨年度より生息する幼虫も多く残った。来年度の羽化に向けた準備を整えることができた。

(2) 企画展示

① 企画展 「つかまえて、育ててみよう！身近な生き物展」

内 容 身近な生き物と触れ合うよさを感じたり、自然や環境保全についてかんがえたりするきっかけとすることを目的に、生き物の採集や飼育方法について、解説パネルとともに生体展示を行う。

開催期日 令和7年4月22日（火）～6月1日（日）

入場者数 延べ 12, 167人

② 企画展 「よく見てみよう！ちょっぴりこわい生き物&うんち展」

内 容 生命の存在価値や命の尊さについて考える契機とするため、ヘビやゴキブリ、クモなど、一般的に嫌悪されたり、怖がられたりする生体と生物の排泄物や排泄物についての解説パネルの展示を行った。令和7年度は、海外のゴキブリやヘビの種類を増やすとともに、生き物のうんちについても種類を充実させ、排泄時の動画も新たに加えることで、日頃は忌避されがちな生物への関心を高めることができた。

開催期日 令和7年9月13日（土）～10月26日（日）

入場者数 延べ 12, 052人

③ 企画展 「身近な生き物と環境展」

内 容 生態系への理解を促進するため、飼育できる身近な生き物（金魚・メダカ・カメ）の紹介を行った。また、SDGsや自然環境保護への啓発を目的として、コオロギパウダー入りクッキーやタガメエキス入りサイダー、乾燥スズメバチなどの昆虫食や廃材水槽の展示、解説を行った。企画展と連動して昆虫食のカプセルトイの販売も行った。

開催期日 令和7年11月1日（土）～12月7日（日）

入場者数 延べ 7, 440人

(3) 教室事業

① ミニ講座(ちょっぴりこわい生き物の展示解説7回を含む)

対 象 全来館者

実施回数 28回

参加者数 延べ 668人

内 容 館内で展示・飼育している動植物について、簡単な説明を行うとともに、実際に生体に触れる体験を実施した。

② 園児教室

対 象 幼稚園や保育所等の園児

実施回数 20回

参加者数 延べ 793人

内 容 動植物の話を聞き、実際に生きものを見たり、触れたり、工作活動をしたりした。

(4) イベント事業

○ 生き物とのふれあい&よみきかせ

対 象 全来館者（幼児とその保護者が対象）

実施回数 12回

参加者数 延べ 228人

内 容 幼児向けの絵本の読み聞かせを行うとともに、絵本に登場する生き物に実際に触れる体験を実施した。

事業の成果と社会的価値

大淀川学習館の最大の売りは、「生き物を自分の目で実際に見て、自分の手で実際に触れる。」

というところである。

「実際に目で見る」ということに関して、当館では動物から植物まで様々な生き物の生体を展示している。展示には常設展示と企画展示があり、常設展示では季節に応じた展示を、企画展示ではあるテーマに基づいた展示を行っている。常設展示においては絶滅危惧種の展示も行っており、表示を工夫することによって、現在、大淀川が瀕している危機的な状況を市民に訴えるという役割を果たしている。また、珍しい昆虫の展示においては、全国昆虫施設連絡協議会に加盟している施設が協力し、お互いに融通し合いながら少しでもいい展示ができるようにしているところに大きな意義がある。

「実際に手で触れる」ということに関して、「ミニ講座」「園児教室」「いきものとのふれあい&よみきかせ」を実施している。特に、「園児教室」「ふれあい&よみきかせ」は未就学児を対象としている。未就学児対象の教室等は他の施設ではほとんど見られない催し物である。未就学児の時期から生き物と実際に触れあうということは、生き物に興味を持ち、自然を大切にすることを育てるためにも大きな意義を持つ。「園児教室」のアンケートでは、園児が「とても喜んで」と回答した園が31園中29園、「喜んで」が2園であった。自由記述の中にも「なかなか触れ合えないさなぎなどに直接さわられてよかった。」「カワニナを幼虫が食べる姿を見て感激していた。」「カワニナを入れると動く様子をじっと見て夢中だった。」「ヤドカリを触ることができてとても嬉しそうだった。」などがあり、生き物との触れ合いによって興味が高まっていることがうかがえる。

また、全12回の「ふれあい&よみきかせ」においても、参加された方の95.4%が「良かった」、4.6%「まあまあ良かった」と回答された。自由記述の欄にも「実際に木の実や種に触れることができ子どもは喜んでいました。」「カメを見たりさわったりなかなかできない貴重な体験を子どもにさせてあげられてよかった。」「葉っぱも実際に触れて、匂いもかぎって良かった。」等、生き物を実際触れたことへの感動や喜びが伝わってくるものが多かった。

今後の改善

「常設展示」については、今後もオオヨドシマドジョウの展示を継続しながら、表示等を工夫することにより大淀川の深刻な現状をもっと伝えていきたい。コウライオヤニラミの報道以来、大淀川水系の危機的な状況が広く知られるようになってはいるが、その内容について詳しくご存じの方はそんなに多くないと感じられる。そのような方々に、写真や表示の工夫をすることによって、大淀川水系の状況を具体的に知ってもらえるような展示にしていきたい。また、全国昆虫施設連絡協議会に加盟している施設と協力しながら、様々な貴重な生き物の展示をしていきたい。

「園児教室」においては、宮崎市、国富町、綾町の176の園に郵便で送付した。メール等でも送付できるのだが、メールが送付先の職員の目に留まらず応募ができないという状況が生まれないことを防ぐためである。今年度も郵便による文書の配布は継続する。しかし、応募した中には、日程が合わず落選にせざるを得なかった園が存在したことも事実である。落選した園をゼロにするために、園の都合やインフルエンザ等でキャンセルになって予定が空いてしまった日程を落選した園に勧めたり、都合が悪くなった園の日程変更を提案したりする総務係の活動を強化していきたい。

「ふれあい&よみきかせ」については、毎月1回水曜日に年間12回実施しているが、その参加人数には、4人から38人と大きな幅がある。人気のある生き物であるかどうか、その日の天候はどうか、来館しやすい季節かどうか等の理由による来館者数の多少に左右されることも多いが、「来館時に知った」お客様も多く、情報の周知徹底が図られていないことも大きな要因であ

ると考えられる。そこでまず、ホームページやSNS、広報誌等での事前の発信をこれまで以上に強化していきたい。また、来館されているお客様への広報を、受付のホワイトボードでの周知はもちろんのこと、放送での呼びかけ、手の空いている職員によるお客様への直接の声掛けを徹底していきたい。一方で、ほぼ毎月参加されるリピーターの方々がいらっしゃるのも事実である。リピーターの数を増やすために、「ふれあい&よみきかせ」の内容の充実に取り組んでいきたい。そして、講座の中で次回の予告をすることと、知り合いにも伝えてほしいということ必ず伝えることを徹底したい。

Ⅲ その他の展示

1 展示事業

(1) 常設展示

大淀川流域の自然や文化、歴史などについて、解説パネル展示とともに、顕微鏡を用いて見ること、標本やはく製等へ直に触れること、身近な動植物への新たな気づきを楽しむことを通して、学びを深めるための展示を行っている。

(2) 企画展示

① 企画展 「カラー魚拓への誘い」

内 容 サカナの特徴に興味をもち、生物を題材とした文化活動への関心を高めるため、サカナの色や形、模様などを鮮やかに表現することができるカラー魚拓61点を、地元愛好家の協力を得て展示した。

開催期日 令和7年6月10日(火)～7月6日(日)

入場者数 延べ 7,084人

② 企画展 「変身しよう!みんなの生き物アート展」

内 容 乳幼児期から親子で自然に親しむきっかけを作ることや、SNSの普及によるフォトスポット需要が高まっていることを受け、自然を感じつつ、写真撮影を通じた文化活動にも触れることができるよう、チョウやトンボになりきる写真スポットとともに、午年にちなんで立体的に作成した馬のオブジェと写真を撮るスポット、飛び出るアカメの写真スポット、海中散歩をしている気分で写真が撮れるスポットなど、5か所の写真スポットを設定した。

開催期日 令和8年1月4日(日)～1月25日(日)

入場者数 延べ 3,569人

③ 新規企画展 「発見、虫のしわざ!昆虫写真展」

内 容 昆虫の生態やその魅力への関心を高めるため、宮崎県在住で昆虫写真家の新開孝氏がこれまでに撮りためた写真の中から、虫の生活の痕跡や生態を映した写真50点を展示した。

開催期日 令和8年2月7日(土)～4月5日(日)

入場者数 延べ 9,521人 ※3月31日(火)までの集計

(3) 作品募集と展示

作品展 第31回 大淀川流域の動植物画コンクール入賞作品展

内 容 大淀川流域の動植物に対する興味・関心を高めるとともに、動植物を観察する力を育てるために、大淀川流域に生息・生育する動植物の精密画を募集し、入賞作品21点を展示した。

応募数 192点

開催期日 令和7年10月1日(水)～10月26日(日)

入場者数 延べ 5,667人

(4) 川のシアター

内 容 大淀川の自然環境への興味・関心を高めるため、8本の番組（大淀川の自然を訪ねて、大淀川の水と生き物たち、大淀川の生い立ちと生き物、母なる川～大淀川～、大淀川水辺のおさんぽ、大淀川の虫たち、ダイビング in 南郷、日向灘の海）をハイビジョンにて上映した。令和7年度は投影機の不具合により、8月17日より立体ハイビジョンからハイビジョンでの投映に切り替えた。

上映回数 881回

観覧人数 延べ 15,104人

(5) 里山の楽校

古来より、人が里山を通じて自然の恩恵を受けながら生活を送ってきたことについて理解し、身近な自然環境を大切にすることを育むために、多目的施設「杉の家」を中心として、里山を再現したフィールドを維持し、「ミツバチはかせになろう！」や「生き物の集まる植物を植えよう！」、「目指せ！ムシはかせ」等の教室事業の会場として活用を図った。また、第2食草園では、自然楽習園を維持するために必要な植物を育てるとともに、生涯学習支援事業である「芋ほり体験」も実施した。

2 学校対応事業

小学生を対象に、小学校3年生で学習するチョウの生態について、観察や講話を行うプログラムや館で飼育する生物の見学や解説を行うプログラムを実施した。また、小学校で理科を担当する先生を対象に、授業で取り上げられるチョウやメダカの飼育方法や生態についての講義・演習を実施した。小学生を対象とした見学プログラムは、主に遠足や校外学習における利用であった。

(1) 授業支援

対 象 小学校 18校

実施回数 18回

参加者数 延べ 1,528人

内 容 チョウやホタルの生態について、間近で見て触れられるという本物の良さを最大限生かしつつ、館で作成したワークシートを用いて学習指導を行った。

(2) 指導者支援

対 象 小・中学校教諭等

実施回数 3回

参加者数 延べ 37人

内 容 チョウとメダカについての生態観察や飼育方法に関する内容について、館独自のテキストを用いた講義や自然楽習園での演習を行った。

3 団体対応事業

(1) 子ども会・PTA・学童保育等への支援

対 象 子ども会・PTA・学童保育等

実施回数 6回

参加者数 延べ 125人

内 容 展示に関する説明や自然をテーマにした簡単な講座等を行なった。

(2) 出前授業等

対 象 児童館や地域づくり協議会等

実施回数 14回

参加者数 延べ 608人

内 容 身の回りにおける生きものを観察したり、その種類を調べたりする野外活動や生き

物の講座を行った。

4 教室事業

自然に対する興味・関心を高めるとともに、環境に対する理解を深めることを目的として行った。

(1) 環境教室

対 象 小学生以上
実施回数 7回（5月に4回、7月に2回、10月に1回）
参加者数 延べ 103人
内 容 「ホタル環境教室」を1回、「川の生き物で水質を調べよう！」を計4回、「自由研究にぴったり！浄水場見学会」を1回、「水の生き物のすむ環境を作ってみよう」を1回計画し、計画通りに実施することができた。

(2) 活動教室

対 象 小学生以上
実施回数 6回
参加者数 延べ 83人
内 容 「水を浄化してみよう！」を2回、「チョウが集まる植物を植えよう！」を2回、「ハーブティーを楽しもう！」、「シイタケの種駒打ちをしよう！」を各1回行った。

(3) ものづくり教室

対 象 小学生以上
実施回数 5回
参加者数 延べ 98人
内 容 「昆虫標本を作ろう！」、「カラー魚拓を制作しよう！」、「植物標本を作ろう！」、「野鳥の巣箱を作ろう！」、「ミツロウでオリジナルキャンドルを作ろう！」を行った。

5 イベント事業

大淀川学習館の利用を促進するとともに、自然に親しみ、水環境に対する関心を高めることを目的として事業を行った。

(1) わくわく工作

対 象 全来館者
実施回数 16回
参加者数 延べ 372人
内 容 大淀川流域の自然や文化をテーマにして、家族で楽しみながら創作を行うイベントを、毎月第1土曜日を基本として月に1回ずつ実施した。その中で、七夕やハロウィン、夏休みや秋休みの前後には回数を増やして実施した。
(工作内容の例：「ミニ鯉のぼりを作ろう！」、「ホタルランタンを作ろう！」、「切り紙で昆虫標本を作ろう！」、「七夕飾りを作ろう！」、「貝がらで工作しよう！」、「風船のハロウィンおばけを作ろう！」、「しめ縄リースを作ろう！」等)

(2) 講演会

対 象 全来館者
実施回数 1回
参加者数 延べ 3人
内 容 NPO法人みやざき自然塾の足立泰二氏を講師に招き、「食べるそばと作物のソバ」と題した講演会を実施した。

(3) どきどき体験

対 象 全来館者

実施回数 5回

参加者数 延べ 115人

内 容 日本けん玉協会宮崎県支部から講師を招き、けん玉の基礎技術から応用技まで紹介、日本古来の文化であるけん玉遊びを体験してもらうイベントを実施した。

6 その他の事業

(1) 学校教育及び幼児保育等との連携

幼稚園や保育所等の園外活動や小中学校の校外学習など、見学時の要望に応じて、自然環境や生物についての講話や体験活動等を提供した。また、中学校や高等学校の職場体験学習や大学の博物館実習等についても積極的に受け入れた。

来館学校等

幼稚園・保育所等	153団体	延べ来館者	3,966人
小学校	42団体	延べ来館者	2,662人
中学校	7団体	延べ来館者	36人
高等学校	2団体	延べ来館者	21人
特別支援学校・大学・短大	4団体	延べ来館者	54人
合 計	208団体	延べ来館者	6,739人

(2) 各種関係団体との連携 ()内は団体等の名称

①自由研究にぴったり!浄水場見学 実施日 令和7年7月24日(木)

(宮崎市上下水道局:下北方浄水場) 入場者数 42人

②絵本の読み聞かせ音楽会 実施日 令和7年6月8日(日)

(宮崎市立宮崎北中学校) 入場者数 80人

③クリスマスコンサート 実施日 令和7年12月21日(日)

(宮崎市立宮崎北中学校) 入場者数 52人

④カラー魚拓を制作しよう 実施日 令和7年6月29日(日)

(色彩魚拓画会) 入場者数 子ども4人、大人4人、計8人

⑤シイタケの種駒打ちをしよう 実施日 令和8年2月8日(日)

(宮崎中央森林組合) 入場者数 子ども12人、大人16人、計28人

⑥生涯学習支援事業芋ほり体験 実施日 令和7年10月29日(水)

(下北方保育園) 入場者数 子ども12人、大人4人、計16人

(3) 情報提供と広報活動

ICT(情報通信技術)を積極的に活用し、SNS(ブログ、フェイスブック)を用いた情報提供や広報活動を行った。その中で、生き物への興味関心を高めるとともに、学習館への興味を喚起することを目的に、イベント情報以外にも、館内や館周辺で見られる季節ごとの動植物の姿を積極的に発信した。

ホームページは全ての教室・講座について、内容を写真付きで紹介し、申込ページを新設した結果、参加者から申し込みが行いやすくなったとの声をいただいた。

また、宮崎市水道局の広報誌「せせらぎ」内の「みやざき水辺の生き物図鑑」の企画・製作に協力した。

宮崎市民プラザ

I 管理運営事業

令和6年度から5か年の指定管理を受け、「集い・学び・交流する活動を推進」「安心・安全で環境に配慮」「公平・公正な管理運営」「利用者の視点に立つ」「効率的かつ効果的な管理運営」の5つの基本方針に基づき、健全で効率的な管理運営に努めた。

(1) 施設利用状況・利用内訳

①開館日数・入館者数等

開館日数	307 日
入館者数	191,097 人
1 日平均入館者数	622 人

②利用内訳

施設等	人数	利用率
オルブライトホール	58,339 人	89.3%
ギャラリー	34,957 人	95.1%
練習室①	10,781 人	88.6%
練習室②	2,798 人	91.2%
大会議室	16,696 人	94.5%
中会議室	8,866 人	93.8%
小会議室①	4,761 人	97.1%
小会議室②	3,747 人	93.5%
和室	3,988 人	88.3%
学習室	4,492 人	86.0%
プレイルーム/授乳室	351 人	—
喫茶コーナー	3,491 人	—
宮崎市民活動センター	26,895 人	—
3階団体室	4,801 人	—
ホール打合せ	13 人	—
ギャラリー打合せ	81 人	—
窓口受付	5,826 人	—
視察者等	214 人	—
合計	191,097 人	—

③臨時休館

令和8年1月17日(土)

大淀川河川工事において発見された不発弾の処理に伴い、不発弾の場所から半径400m以内の警戒区域内に位置する市民プラザに対し、区域外への避難指示が発令されたため、終日休館とした。

II 主要事業

(1) 市民プラザ開館25周年記念事業「オーケストラ・リクエストコンサート」

開館25周年を記念して、オーケストラで聴きたい曲目を市民から募集し、リクエストの多かったランキング上位の曲を、豪華ゲストアーティストと宮崎のオリジナル管弦楽団で演奏するコンサートを実施した。

- ・日時 令和8年1月25日(日) 13:30開場 14:00開演
- ・場所 オルブライトホール
- ・出演者 May J. (シンガー)、MAKOTO (トランペッター)、廣津留すみれ (ヴァイオリニスト)、土田浩 (指揮)、みやざきリクエストコンサート管弦楽団 (管弦楽)
- ・入場料 全席指定/前売4,000円 (当日4,500円)
- ・入場者数 451人
- ・事業の成果と社会的価値

来場者アンケートの結果、98.1%が「良かった(満足)」と回答。自由回答からは、「地方都市の宮崎でこのようなトップアーティストたちの共演が見られて嬉しい、今後も続けてほしい」といった声があり、都市圏と比べ地方ではプロのアーティストによる公演が相対的に少ないことから、当事業が単なる娯楽を超えて、地域間の鑑賞機会の格差を埋める重要な役割を果たしたことが確認できた。これは、都市圏に依存せず、質の高い芸術を身近に提供することで、地方移住の促進や定住意向を高めるための「住み続けたいまちづくり」という社会的課題の解決にも寄与するものである。また、「日ごろオーケストラの演奏を聴くことがなく敷居が高いかと思ったが、こんな内容のプログラムであれば気軽に楽しめる」「身近に感じた」と多くの来場者が回答しており、リクエスト形式による親しみやすいプログラムと、宮崎に縁のあるプロアーティストの起用により、文化芸術への参加障壁を下げ、新たな鑑賞者を開拓する効果も確認できた。さらに、「自分も演奏を再開したくなった」といった声に見られるように、鑑賞にとどまらず市民の文化活動への参加意欲を喚起する波及効果もあった。

・今後の改善策

「イベント時はロビーが大変混雑するので何とかできないかと思います」との意見があったため、今後は、来場者の整列方法や動線などの運用方法を見直すとともに、混雑状況に応じた開場時間の前倒しやホワイエ内まで入場していただく柔軟な対応をとる。また、次年度の一部公演において電子チケットを試験的に導入し、入場時の混雑緩和を検証する。

(2) 市民プラザプロデュースシリーズ Vol.2 演劇公演「わたしのいるところ」

市民プラザを創作拠点に県内の劇団員が脚本・演出等を手掛け、一般公募で集まった県内在住の40人が半年間にわたる稽古を経て、宮崎市に実在する3つの通り(橘通り・広島通り・四季通り)を舞台に描いたオムニバスの創作演劇を実施した。

- ・日時 令和8年3月15日(日) ①10:30開場 11:00開演
②14:30開場 15:00開演
- ・場所 オルブライトホール
- ・出演者 県民・市民40人、宮崎県演劇協会
- ・入場料 全席指定/前売2,000円 (当日2,500円)
- ・入場者数 616人
- ・事業の成果と社会的価値

来場者アンケートの結果、91.4%が「良かった（満足）」と回答。自由回答からは、「宮崎の良さを再認識する機会となった」「街のことを愛おしく感じる作品でした」といった声が寄せられ、地域への愛着や関心が高まり郷土愛が醸成されるなどの意識変容が確認できた。これは、地域アイデンティティやシビックプライドの希薄化という社会的課題の解決に寄与するものである。また、「行ったことのない場所もあったので行ってみようと思う」「宮崎の通りを散策したくなった」との声も複数あり、中心市街地への回遊意欲を示す行動変容が確認できた。これは、実際のまち歩きや消費行動を誘発する「地域経済の活性化」や「都市の回遊性向上」に寄与する可能性がある。そして、「こんなにたくさんの皆さんがお芝居を愛し、舞台上で生き生きと表現される姿を見て、私もやってみたくなりました」との声もあり、40人の県民・市民出演者の挑戦が文化活動への参加意欲を喚起する効果が見られた。これは、市民の文化活動参画を促進する点で、文化芸術振興の観点からも意義が大きい。

・今後の改善策

「演者のセリフが聞き取りづらかった」「聞こえにくかった」「声が聞きとれない場面があった」との意見が複数あったため、今後は、リハーサル時のチェック体制を強化するとともに、演者の動きに合わせて声を拾えるようバウンダリーマイクの設置位置や台数を再検討し、必要に応じてワイヤレスマイクピンマイク等を増設するなど、音響面の改善を図る。

Ⅲ その他の事業

(1) THE BACKSTAGE～舞台裏体験ツアー～

普段は入ることのできないオルブライトホール裏側を見学・体験することで、舞台機構設備や舞台スタッフのお仕事についての興味関心を高めてもらうため、小学生親子を対象にバックステージツアーのほか、朗読劇の音響・照明、役者体験なども実施した。

- ・日 時 令和7年8月16日（土）①9：30～12：00
②14：00～16：30
- ・場 所 オルブライトホール
- ・参加者数 45人（子ども23人、保護者22人）
- ・演 者 劇団FLAG

(2) 桂 歌春の落語教室（アウトリーチ事業）

本県出身で落語家の桂歌春さんと宮崎の小学生が交流する機会を創出するとともに、古典芸能の落語を身近に感じてもらうため、桂歌春さんが小学校へ出向いて実施した。

- ・日 時 令和7年9月24日（水）①9：20～10：20
②13：20～14：20
- ・場 所 ①宮崎市立小戸小学校
②綾町立綾小学校
- ・対 象 ①6年生児童53人
②5年生児童53人、6年生児童69人
- ・講 師 桂 歌春（落語家）

(3) 市民プラザ寄席「志の輔・歌春二人会」

市民が気軽に楽しめる落語を通して、古典芸能への興味関心を高めてもらうため、本県出身で落語家の桂歌春さんがプロデュースし、実力と人気を兼ね備えた立川志の輔さんを迎えての二人会を実施した。

- ・日 時 令和7年11月23日（日・祝）13：30開場 14：00開演
- ・場 所 オルブライトホール
- ・出演者 立川志の輔（落語）、桂歌春（落語）、マグナム小林（バイオリン漫談）、立川志の大（落語）
- ・入 場 料 全席指定／前売4,000円（当日4,500円）
- ・入場者数 462人

（4）クリスマスコンサート～ジャズとゴスペルの贈り物～

宮崎を中心に活動・活躍しているジャズやゴスペルのアーティスト3組による、クリスマスをテーマにしたコンサートを実施した。

- ・日 時 令和7年12月21日（日）17：30開場 18：00開演
- ・場 所 オルブライトホール
- ・出演者 みやざきスイングジュニア、Whoopin Gospel Choir、香月保乃ジャズクインテット
- ・入 場 料 全席指定／前売1,000円（当日1,500円）
- ・入場者数 463人

（5）みやざきARTリーチ（アウトリーチ事業）

文化芸術に対する関心を高めてもらうとともに、文化芸術体験を通して心豊かな感性を育むため、多様な分野と連携して講師・演者等を学校や施設等へ派遣し、鑑賞会やワークショップを実施した。

①プログラム「宮崎忍者修行の巻」

大学の留学生を対象に、宮崎で活躍した忍者の歴史講座や、手裏剣・吹き矢などを体験してもらい、日本の忍者文化の実態を学ぶ機会とした。

- ・日 時 令和7年6月6日（金）13：00～15：00
- ・場 所 宮崎大学 木花キャンパス
- ・対 象 宮崎大学・宮崎国際大学の留学生ほか日本人学生・教員など27人
- ・講 師 青木直幹（忍道陰忍五段師範）

②プログラム「障がい者と楽しむ音楽」

障がい者を対象に、歌謡曲やアニメソングなど馴染みのある曲の鑑賞会や、手作り楽器を使った合奏を体験してもらい、表現力の向上や社会参加の意識へと繋げる機会とした。

- ・日 時 令和7年8月21日（木）10：00～10：50
- ・場 所 障害者支援施設やまびこの里
- ・対 象 入所・通所者ほか職員など75人
- ・演 奏 酒井勇也（宮崎大学教員）、宮崎大学の学生

③プログラム「笑って学ぶ狂言の世界」

小学生を対象に、教科書にも掲載されている「柿山伏」の鑑賞や、狂言のすり足や独特の発声を体験してもらい、伝統芸能への関心を深める機会とした。

- ・日 時 ①令和7年9月10日(水) 10:30~12:00
②令和7年10月23日(木) 13:40~15:20
- ・場 所 ①宮崎市立七野小学校(田野西地区公民館)
②宮崎市立高岡小学校
- ・対 象 ①全校児童56人
②6年生児童68人
- ・演 者 ①山下守之(狂言師)、茂山宗彦(狂言師)
②山下守之(狂言師)、茂山 茂(狂言師)

④プログラム「コミュニケーションで自分と相手を知ろう」

特別支援学級の児童を対象に、演劇の手法を使った体を動かすゲームや、ワークショップによる表現力や言葉だけではない意思疎通方法を体験してもらい、表現する楽しさやコミュニケーション能力を高める機会とした。

- ・日 時 令和7年10月31日(金) 9:35~11:15
- ・場 所 国富町立森永小学校
- ・対 象 特別支援学級4~6年生児童3人
- ・講 師 黒木朋子(どらまさるく)、かみもと千春(劇団こふく劇場)

(6) 高校生のための演劇技能発表会【共催事業】

宮崎県高等学校文化連盟との共催で、高等学校総合文化祭に向けた高校演劇部の技術力向上を目指し、演技や脚本・舞台技術についての講習会と成果発表会を実施した。

- ・日 時 令和7年7月10日(木) 10:00~16:30
11日(金) 9:00~17:00
- ・場 所 オルブライトホール、ギャラリー、会議室、和室、学習室、練習室
- ・講 師 演技実践講座/劇団こふく劇場、ユニットろむ
創作脚本講座/伊藤 海(劇団FLAG)
舞台技術講座/市民プラザ舞台技術職員
- ・参加者数 275人(宮崎県内高校演劇部員)

IV 情報提供と広報活動

市民プラザでは、幅広い年齢層の市民へ多様な情報を効果的に届けるため、新聞・テレビ・ラジオ・フリーペーパーなどのメディアと自前の媒体・ツールを組み合わせ、相乗効果を図りながら情報を発信した。

公式ホームページやSNS(インスタグラム、フェイスブック、X、YouTubeチャンネル等)を通じたリアルタイム発信、市民プラザのイベントガイド誌や当協会機関誌「まなぶんか」および「市広報みやぎき」への情報掲載、新聞社・放送局へのマスコミ訪問や宮崎市政記者クラブへの積極的なプレスリリース等々、多岐にわたる広報活動を展開した。特に、地域密着型の宮崎ケーブルテレビや宮崎サンシャインFMでは、職員が出演して生の声を届けた。

さらに、県内公立文化施設とのネットワークを活用したチラシの相互配架や類似公演でのチラシ

折り込み、過去数年間の公演来場者に対するダイレクトメール発送、市民プラザ館内のデジタルサイネージを用いた視覚効果のある広報も実施。今後も多面的な情報提供を目指していく。

法人の運営体制の充実を図るための取組

1 公益法人内部における規範

当法人では、全職員研修（令和7年4月21日開催）を実施し、住民の視点に立った平等かつ公平な利用の確保、コンプライアンスの徹底、ハラスメントの根絶、ならびに研究事業や職員研修への積極的な参加といった、協会職員としての心構えを指導している。

さらに、令和7年5月3日付の「職員の服務規律の確保について（通知）」および、11月27日付の「年末年始等における職員の服務規律の確保と綱紀粛清について（通知）」を全職員向けに発出した。

これにより、来館者への接遇、現金等の取り扱い業務の執行、交通法規の遵守と安全運転、飲酒運転の根絶と節度ある言動、利害関係者等との規律、兼業、新型コロナウイルス感染防止対策の徹底、ならびに職員間の適切な関係構築と相互尊重について、継続的な周知と徹底を図っている。

2 公益法人の機関別（理事会・評議員会、監事）における具体的取組

意思決定機関の多様性を確保するため、宮崎市、国富町、および綾町から理事や監事を選任し、事業が一部の利害関係者に偏らず広く公益に資する体制を整えている。

また、異なる分野の専門家や、ジェンダー・バランスに配慮した役員等の登用を行うことで、事業判断におけるチェック機能と創造性を強化している。

理事会および評議員会の運営においては、議案の概要や詳細な事業資料を事前に配布し、出席者の深い理解を促している。これにより、特定の理事が方針を独占することなく、登用された多様なメンバーがそれぞれの視点から発言し、形式に留まらない建設的かつ実質的な議論を行っている。

3 不祥事の予防・発見・事後対応の仕組み

不祥事の予防として、処務規程において専務理事の専決事項を明確に定めている。また、全職員研修を通じてコンプライアンスの徹底に向けた意識共有を図り、組織全体での法令遵守体制を強化するとともに、ハラスメント専用の相談窓口を設置・運用することで、未然防止と迅速な対応が可能な体制を構築している。

さらに、契約業務においては、1者随意契約の範囲を限定し、設計額に応じた見積もり合わせや競争入札を徹底している。指名業者の選定にあたっては、担当者個人の裁量を排し、組織的な意思決定を行う選定委員会において、実績や価格等の客観的な評価基準に基づき審査を行うことで、特定の業者への偏りを防ぐ強固なチェック体制を運用している。

4 社会的課題の解決に向けた事業の効果に係る定性的・定量的測定

当法人では、各館の主要事業において定性的・定量的な効果測定を行い、その結果を次年度以降の事業改善に活用するサイクルを運用している。具体的なデータ等を用いた効果の測定結果、およびそれを踏まえた改善の取組については、事業報告書の各館事業の実施状況（「事業の成果と社会的価値」および「今後の改善策」）に記載の通り。